

第8回 東日本大震災子ども支援意見交換会のご案内

－遊びと親子の居場所支援を中心にして－

子どもにとって遊びは生活そのものです。

大震災の後、子どもたちの遊び場は、津波等によって壊されただけでなく、仮設住宅設置などに大半が使われたり、放射能の影響により遊び場が限定される等、その環境は厳しく制限されています。また、子育て家庭の孤立化を防ぐための子育て支援施設は、地域での暮らしを支え、子どもの成長発達を保障する大切な生命線ともいえる施設です。

NGOやNPOは、大震災後いち早く、被災した子どもたちに絵本等遊具や遊び道具などを配布し、時には小学校の片隅や仮設園舎など限られた場所を使って遊びを大切にしたい支援を行い、子どもたちの心と体を守り育ててきました。

大震災後3年目にはいり、まだまだ整備が進まない子どもたちの遊び環境や、集いの場や支援者を失った親と子を地域で支える居場所や子育て支援の復興支援が問われています。

今回は、親子を対象にした遊びと居場所支援をめぐって、当事者たちの避難先でのつどいの場づくりやNGOや企業の支援活動と自治体からの報告を受けとめ、今後何を私たちが取り組まなければならないのか、情報・意見交換会を行いたいと思います。

ぜひ、ご参集ください。

日時：2013年5月30日（木）11時～13時

場所：参議院議員会館地下1階109会議室

*10時30分から10時50分までに受付においでくださるようお願いします。



司会進行：森田明美（東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長 東洋大学教授）

荒牧重人（東日本大震災子ども支援ネットワーク運営委員 山梨学院大学教授）

<報告>

1 被災地における遊びと親子の居場所支援

- ・企業による遊びバスの巡回：中山弘子（イケア・ジャパンKK）
- ・避難した母たちが作り出す居場所：中村美紀（山形県村山地区うつくしま未来ひろば代表）
- ・遊びを中心とした継続的な支援：本田涼子（日本ユニセフ協会心理社会的ケアアドバイザー）

2. 自治体での遊びと親子の居場所支援

- ・行政が作り出す親子の居場所支援：菅野利尚（陸前高田市民生部社会福祉課課長）
- ・室内型の多様な親子の遊び場・居場所支援：野口雅世子（郡山市子ども部次長 兼 子ども支援課長）

3 政府からの遊び支援、子育て支援に関するコメント

厚生労働省、文部科学省、内閣府、復興庁（予定）

4 震災子ども支援への国会議員からの発言

<討議>

<主催> 東日本大震災子ども支援ネットワーク

事務局：東洋大学白山校舎2号館608号 森田明美研究室

TEL・FAX 03-3945-7481 E-mail : info@shinsai-kodomoshien.net

